

## 「通貨 Watcher ～Trend Report」配信終了のお知らせ

くりっく365「通貨 Watcher ～Trend Report」は、2020年3月30日号をもちまして配信及び掲載を終了いたします。

なお、2020年3月30日号までは、これまでどおり毎週月曜日に下記 URL に掲載いたしますので、是非ご活用ください。

「通貨 Watcher ～Trend Report」

- ・ URL : [https://www.click365.jp/retail/pdf/report\\_tfx.pdf](https://www.click365.jp/retail/pdf/report_tfx.pdf)
- ・ 掲載終了日 : 2020年4月6日（月）

これまでご利用いただきありがとうございました。

株式会社東京金融取引所

### 【3月米雇用統計 非農業部門雇用者数は2010年9月以来の減少予想】

＜前回のレビュー(2月雇用統計)＞ (日本時間3月6日午後10時30分発表)

- ・非農業部門雇用者数: 前月比+27.3万人 (市場予想: +19.5万人程度)
- ・失業率: 3.5% (市場予想: 3.5%)
- ・平均時給: 前年比+3.0% (市場予想: +3.0%)

3月6日に発表された2月米雇用統計で、非農業部門雇用者数は前月比+27.3万人で市場予想の同比+19.5万人程度を上回りました。ドル・円は105円01銭から105円73銭まで上昇し、105円29銭で取引終了。クドロー国家経済会議(NEC)委員長が、新型肺炎による被害が大きいと見られる中小企業や航空会社などに的を当てた財政支援を行う可能性を示唆したこともドル買い材料となりました。ダウ工業株30種平均は256.50ドル安の25864.78で取引を終了しました。

＜今回の予想(3月雇用統計)＞ (日本時間4月3日午後9時30分発表予定)

- ・非農業部門雇用者数: 前月比-10万人程度
- ・失業率: 3.8%
- ・平均時給: 前年比+3.0%

3月の雇用統計では、非農業部門雇用者数は前月比-10.0万人程度で雇用者数は2010年9月以来となる前月比マイナスとなる見込みです。失業率は2月実績から0.3ポイント上昇の3.8%、平均時給の上昇率は、前年比+3.0%で2月実績と同水準になると予想されています。

＜市場反応＞3月雇用統計の結果を受けて外為市場はどう反応するのか？

#### 《非農業部門雇用者数が市場予想を上回った場合、ドル買いが強まる可能性》

3月の非農業部門雇用者数が市場予想を上回った場合(雇用者数の減少幅が市場予想を下回った場合)、ドル買いがやや強まる可能性があります。ただし、市場は4月の雇用統計が大幅に悪化することを想定しており、3月の雇用統計が市場予想を上回る内容でも好感されない可能性があります。

#### 《非農業部門雇用者数が市場予想を下回った場合、株安・ドル安の可能性》

3月の非農業部門雇用者数が市場予想を下回った場合、4月雇用統計の大幅な悪化を織り込む動きが広がり、米国株式は下落し、株安を意識してドル売りが強まる可能性があります。4月の失業率は二桁に上昇すると予想されていますが、3月の失業率が市場予想を上回った場合もドル売り材料になるとの見方が多いようです。

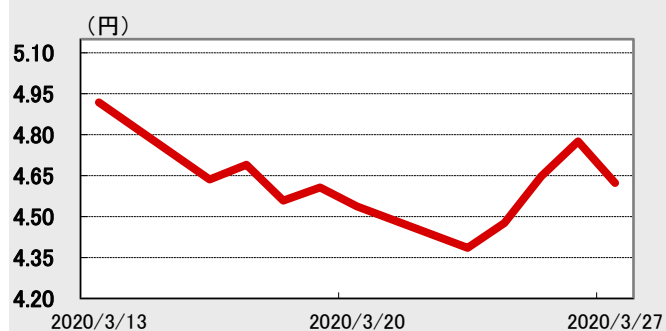
### 為替相場

#### 先週のメキシコペソ相場

取引レンジ 4.36 円 - 4.80 円

堅調推移。米国の大規模な経済支援策への期待が広がっており、メキシコ経済への好影響もあることから、リスク回避的なペソ売りは縮小した。また、米長期金利の大幅な低下を意識してペソ買い・米ドル売りの取引も増えており、この影響でペソは対円でも強い動きとなった。

#### 2週間の推移

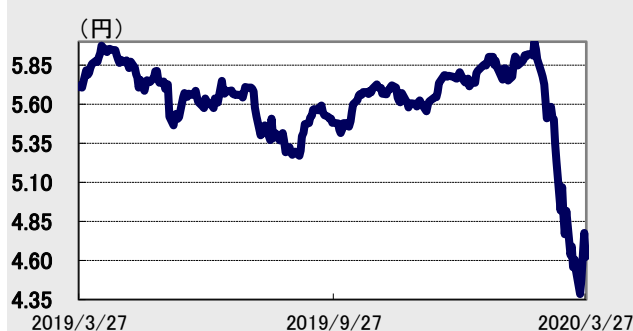


#### 今週の見通し 3月30日 - 4月3日

想定レンジ 4.50 円 - 4.74 円

伸び悩みか。米国の大規模な経済支援策への期待はあるものの、3月27日の米国株式は大幅安となった。週明け30日の米国株式が続落した場合、米国経済の将来的な回復期待は後退し、リスク選好的なペソ買い・米ドル売りは縮小する可能性がある。この影響でペソの対円レートは伸び悩む展開もあり得る。

#### 1年の推移



### 債券相場動向(メキシコ5年債)

#### 先週の概況

利回りは低下。欧米株式市場の大幅上昇など、先週は世界的にリスクオンの流れとなって、メキシコ国債にも買いが広がった。オブラドール大統領が、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため予防レベルをフェーズ2に引き上げ、学校の休校措置延期、100人以上の集会等禁止を打ち出した。

#### 今週の見通し

利回りは横ばいか。依然として高い金利水準から利下げ余地が残されていること、現状で新型コロナウイルスの感染者数が抑制されていることなどを背景に、メキシコ国債の買い余地がある。ただ、足元で利回りの低下ペースは速く、いったんはメキシコ国債買いの流れにも一服感が強まろう。

### 今週の買い要因・売り要因

#### ◆ 買い要因

- ・主要国の株式市場安定化
- ・米長期金利の安定化
- ・ウイルス感染の早期終息期待

#### ◆ 売り要因

- ・米国経済の悪化
- ・ウイルス感染の拡大
- ・政府債務の悪化懸念

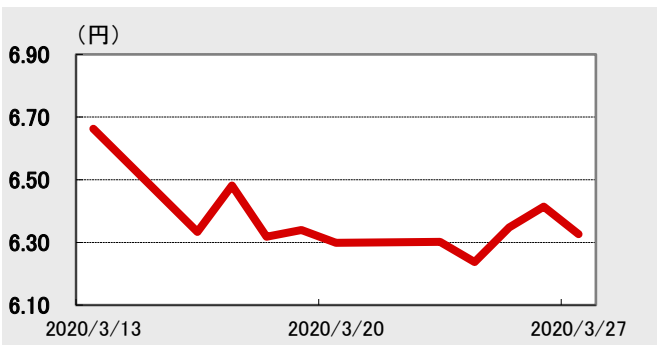
### 為替相場

#### 先週の南アランド・円相場

取引レンジ 6.11 円 - 6.48 円

下落。全般リスクオンの相場展開となったものの、週末の格付け会社ムーディーズ格付けを控えて、ランドには警戒感が優勢となった。新型コロナウイルスの感染拡大などもマイナス視。なお、ラマポーザ大統領が緊急国家演説を行い、3月26日から4月16日までの間、南アフリカ国民に外出禁止令を発令した。

#### 2週間の推移

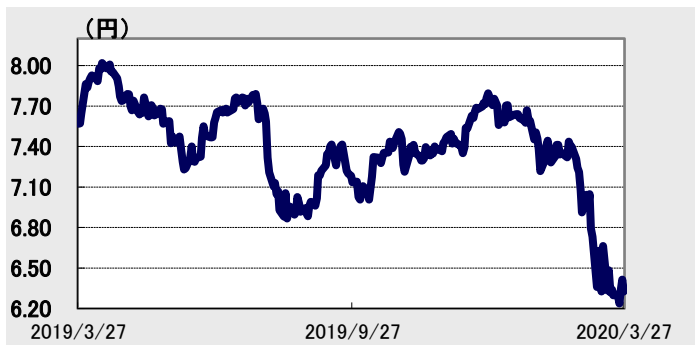


#### 今週の見通し 3月30日 - 4月3日

想定レンジ 5.50 円 - 6.15 円

下落を予想。格付け会社ムーディーズでは先週末、南アフリカ格付けを「Ba1」に引き下げ、見通しをネガティブとしている。格付けがスキップされるとの期待も残っていただけに、週初からランド売りの流れが強まる見通し。マーケットが波乱の中では悪材料出尽くしには至らないとみられる。

#### 1年の推移



### 債券相場動向(南アフリカ10年債)

#### 先週の概況

利回りは横ばい。欧米株式市場の大幅上昇など全般リスクオンの相場展開は、新興国債券へのプラス材料となるが、南アフリカ国債の買いは限定的だった。ラマポーザ大統領は3月23日、全国民に対して3週間の外出禁止令を発令、目先の景気悪化に対する懸念が強まる状況にもなった。

#### 今週の見通し

利回りは上昇か。3月27日には格付け会社ムーディーズが格下げを実施、格付けは「Ba1」とされ、いわゆるジャンク債となる。見通しもネガティブとされている。週初から南アフリカ国債には売り圧力が強まることとなる。新型コロナウイルス感染者拡大なども警戒材料。

### 今週の買い要因・売り要因

#### ◆ 買い要因

- ・米国の無制限的緩和策
- ・欧州経済の回復期待
- ・原油安

#### ◆ 売り要因

- ・アフリカ諸国でウイルス感染拡大の懸念
- ・債務格付け引き下げ
- ・世界経済の急減速

### 為替相場

#### 先週のトルコリラ相場

取引レンジ 16.68 円 - 17.46 円

軟調推移。米長期金利の低下を意識して米ドル買い・トルコリラ売りはある程度縮小したが、米ドル・円相場は円高方向に振れており、この影響でトルコリラの対円レートは16円台後半まで売られる展開となった。トルコ中央銀行による追加利下げ観測が強いことも、対円レートの上昇を抑える一因となったようだ。

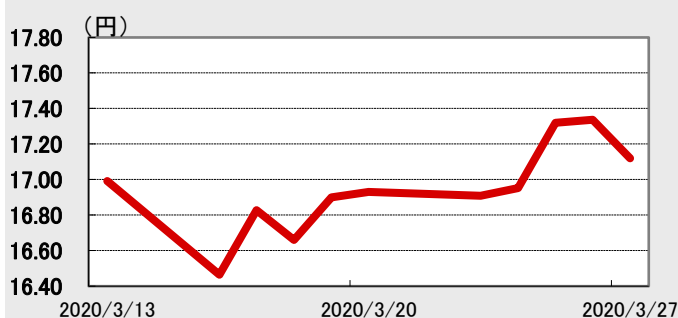
#### 今週の見通し

3月30日 - 4月3日

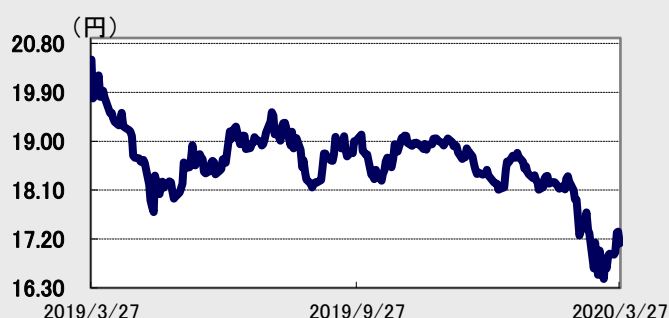
想定レンジ 16.40 円 - 17.00 円

伸び悩みか。米長期金利の低下を意識して米ドル買い・トルコリラ売りは縮小しているものの、トルコなどの新興国市場から欧米投資家の資金が流出するリスクは消えていない。欧米諸国の株式がさえない動きを見せた場合、リラは対円で伸び悩む状態が続くとみられる。

#### 2週間の推移



#### 1年の推移



### 債券市場動向(トルコ5年債)

#### 先週の概況

利回りは低下。主要中央銀行による流動性供給は拡大しており、ドル資金不足は解消に向かっていることから、トルコ国債の利回り水準は全般的に低下した。新型コロナウイルス感染拡大への懸念はあるものの、資金流出懸念は多少和らいだことも、債券利回りの低下につながったようだ。

#### 今週の見通し

利回りは下げ渋りか。トルコ中央銀行によるさらなる金利引き下げの可能性はあるものの、短期的には為替相場の動向を意識した取引が主体となりそうだ。トルコの金利先安観が強まり、米ドル高・トルコリラ安が続いた場合、債券利回りは全般的に下げ渋る可能性がある。

### 今週の買い要因・売り要因

#### ◆ 買い要因

- ・原油安
- ・米国の無制限的緩和策
- ・ロシアとの関係改善

#### ◆ 売り要因

- ・原油高
- ・米長期金利の上昇
- ・ウイルス感染の拡大

## ディスクレマー(免責条項)

本レポートは、本取引所が(株)フィスコから提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、(株)フィスコに帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

### 株式会社東京金融取引所

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062東京都港区南青山五丁目11番9号

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443(情報配信部)

メールアドレス：support@fisco.co.jp